

第1回四国中央市総合計画審議会
議事要旨

1. 日 時 平成30年7月26日(木) 午前10時30分開会
午前11時40分閉会
2. 場 所 四国中央市役所 5階 第1委員会室
3. 出席者 井上治郎、苅田清秀、井川俊高、星川 豊、森実友親、高橋厚德、矢野 強
篠原 晃、石黒忠則、鈴木千明、高木恭也、森川啓子、井上 仁、今村八千代
4. 欠席者 篠原一志
5. 傍聴人数 6人(一般傍聴5人、報道関係者1人)

6. 次第及び決定事項

次 第	決定事項
1. 開会	
2. 委嘱状の交付	
3. 市長あいさつ	
4. 自己紹介	
5. 会長・副会長の選出及び就任あいさつ	・井上治郎会長、高橋厚德副会長を選出
6. 議 事	
(1) 第二次総合計画後期基本計画(素案)について	
(2) 部会の設置及び部会委員の選任について	・部会設置を可決
(3) その他	・部会委員7名を選任
①今後のスケジュール及び次回審議会の開催について	高橋厚德委員、矢野強委員
②委員報酬について	篠原晃委員、石黒忠則委員
7. 閉会	鈴木千明委員、森川啓子委員 今村八千代委員

※配布資料

- ・資料1…第二次四国中央市総合計画後期基本計画(素案)
- ・資料2…第二次四国中央市総合計画後期基本計画(素案)の概要
- ・資料3…部会委員名簿(案)
- ・資料4…審議会スケジュール

7. 委員意見要旨

委員	<p>前期基本計画の指標の目標値の達成状況で、達成が困難な指標が45%ある。これらの指標について、後期はどのように考えているのか。</p>
事務局	<p>C評価の指標の中で、例えば、「観光ボランティアガイド登録者人数」については、当初の37人から50人に増やす目標としていたが、結果的には32人であった。現在、ガイドを活用しているコースは土佐街道だけであるが、今後はコースを増やしていくなど、事業内容の充実に向けて見直しを行ったうえで目標値を設定している。また、「子育て支援のメニューの数」など削除した指標もあるが、これはメニューの数を増やしていくより、現在実施している支援メニューの内容を充実させていくということで削除したものであり、当指標に代わる別の指標を新たに設定している。いずれにしても、指標の内容や目標値を整理し、後期の指標として設定している。</p>
委員	<p>認定こども園整備事業が計画され、川之江保育園、川之江幼稚園についても事業が始まっているが、工事が始まると園庭がなくなり、当初入園を希望していても、それを理由に他の園に希望を変更した家庭もあるということを聞いた。整備と並行して、子どもたちが園生活を送りやすい、保護者が行かせやすいというところも考えて整備してもらいたい。</p>
事務局	<p>この件に関しては、担当課にお伝えする。</p>
委員	<p>前期の指標の中に、小中学校の耐震化率は入っていたのか。また、現在の環境の変化の中で、エアコン整備は欠かせないのではないかと感じている。</p>
事務局	<p>前期基本計画では、耐震化の数値は指標に設定されていなかった。後期についても、耐震化工事が終了していることもあり、新たな指標としての追加もしていない。なお、素案においては、教育環境の整備という方向性を記載しているので、エアコン整備等を進める場合は、その方向性に沿って行っていくことになる。</p>
委員	<p>7月25日付の新聞記事にも出ていたが、「外国人労働者の受け入れ拡大」について前期では議論されなかったが、後期では人手不足が深刻になってくる。素案の人口見通しでも示されているように、四国中央市でも、今後、福祉、教育、産業分野など全てにおいて、人口は減っていき、空き家も空地も増えていく。総合計画で掲げられている事業やまちづくりは、全て、人が行うものであり、この問題を後期基本計画にも入れるべきだと思う。このような状況下でも人口増となっている先進地に学び、歯止めをかける努力をしていかなければいけない。</p>
副市長	<p>合併当時1,270人いた市職員についても、急激な削減の結果、15年経過した今、組織ピラミッドが逆になっている。行政改革において一定の効果はあったものの、職員採用枠を広げ取り組んでいるが、人材は官から民へ流れており、特に専門職の応募は少ない状況であり、確保に苦慮している。10年、20年後には、市役所組織の人材確保は、さらに難しくなってくると危惧している。</p>
事務局	<p>四国中央市には840人程度の外国人がいる。そのうち6割が技能実習生で3年から5年で帰られる短期の方、2割程度が永住される方である。国別ではベトナムが一番多く350人程度、中国が250人程度である。毎年、日本人の住民</p>

委員	<p>人口は減っているが、外国人は 100 人程度増えている現状である。</p> <p>日本も将来、アメリカのように半分程度が外国人になり、それでなんとか保てるような国になるのではないかと思っている。そういう中で、我々の地域も、少しずつ先取りし、勉強しておかないと、周りの市町に遅れをとるのではないかと思っている。</p>
委員	<p>シンガポールの人口に占める移住者は 46%となっている。シンガポールでは、都市づくりにおいて、学者を集め、外国人が定住するために、食べ物から調査したうえでグローバルシティとなった。日本の学校で A L T をしている方は 2 年しかいられない。A L T をやめた後も在住したいと思う人もいるが、次の職が見つからず、市を離れていくので、そのような取組も必要だと考える。</p>
会長	<p>外国人の受け入れについては、これまでは労働力としてみており、人口が減っていくのを埋め合わせるというような見方はしていないと思われる。</p>
委員	<p>市内に 800 人の外国人がいる現状。そういう意味では積極的に外国人を受け入れ住みよいまちにし、永住してもらおうという方向性も大事なのではないか。また、ある程度、友好都市をつくっていくのもいいのではないか。</p>
委員	<p>オリンピックもあるので、より一層日本に住みたい人は増えてくると思う。</p>